

グローバル社会で活躍する自律した学習者をはぐくむシブヤモデル「未来の学校」

探究「シブヤ未来科」スタート!

ICT×探究 + 地域×企業



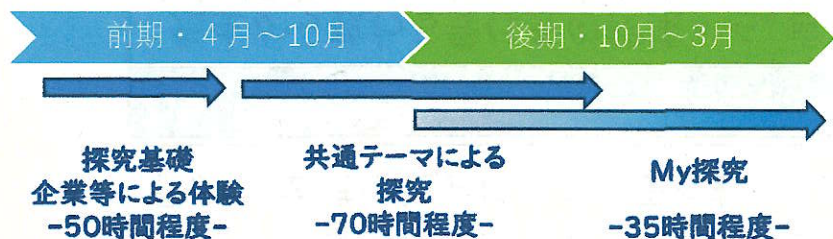
学校の1日の流れの例(令和6年度)

中学校は、時間講師の関係で、午後の探究時間に変更もあります。

月～金	
午前 1～4校時	教科を中心とした授業 国語、社会、算数・数学、理科など
午後 5～6校時	探究 主として「シブヤ未来科」の時間 ～子ども主体の学び～ 総合的な学習の時間、道徳、特別活動等

探究の1年の流れの例(令和6年度)

例:小学校6年生 総合的な学習の時間の年間授業時数155時間



前期(～夏休み)は、各教科の見方・考え方に基づいた探究の進め方やスキルを学びます。また、渋谷区や各学校と関連のある地域の方や企業等とコラボして魅力ある体験活動を経験することで、「すごいな」「驚いた」「不思議だな」「なぜだろう」といった子どもたちの感動、発見、疑問を「問い」につなげます。

夏休み明け以降は、学校が定めた共通テーマによる探究や、子ども一人一人が立てた「問い」を探究していくMy探究を通して情報収集や整理・分析、まとめ・表現の力を高めていきます。最終的にはMy探究の時間を増やしていきます。

先生が教える授業から、子どもが学びを創る授業へ!
シブヤ未来科で『探究』の時間が充実します!

未来に求められる3つの能力

時代とともに学び方や学校の役割も変化していきます。
渋谷区では「自ら考え判断して学び続けていく自己調整力」「多様な仲間と協働して新たな価値を生み出す創造力」「自分が思い描く未来を実現していく挑戦力」の育成に重点をおき、個別最適な学び、協働的な学び、そして探究的な学びを重視して、シブヤモデル「未来の学校」に向けた新しい教育を進めています。

「探究」することで、教科での学びを本当の学力へ

探究的な学びを充実させるのが、「シブヤ未来科」の探究の時間です。教科の学習で培った見方や考え方・スキルは、日常生活や社会の事象を考察する場面において生かされなくては本当の学力として身につけません。「シブヤ未来科」の探究の時間は、それを最大限に生かす時間です。

他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったり、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりする探究活動は、従来の教科等の学習の中でもありましたが、「シブヤ未来科」の探究の時間を通して、グローバルな視野をもった主体的な探究活動を充実させ、生きて働く本物の学力を身に付けていきます。

■文部科学省 授業時数特例校制度 を活用します!

令和6年度は、文部科学省「授業時数特例校制度」を区立全小・中学校で申請・活用します。国語や算数・数学など、各教科※1の授業時数の一部(1割)を総合的な学習の時間に上乗せすることで、探究の核となる総合的な学習の時間の充実を図ります。

※1 学習指導要領に定められた各教科で学ぶ内容は変わりません(減りません)。
また、音楽(中学校第2,3学年)、美術(中学校第2,3学年)、技術・家庭、特別の教科 道徳、外国語活動、特別活動の授業時数は、制度の規定により、総合的な学習の時間への上乗せはしません。

令和5年11月
渋谷区教育委員会事務局教育指導課
電話 03(3463)1211

Q&A (実際に寄せられたご質問をもとに作成しています。)

Q1. 探究は、この先の入試や将来に役立ちますか？

探究を通して、知識やスキルを身に付けるだけでなく、自己の創造性を発揮し問題解決能力を高めますので、入試での面接や小論文などで大きな強みになります。さらには、探究を通して身に付けた力は、入試だけでなく予測が困難な社会に生きる子どもたちにとって、将来を通して大いに役立つものとなります。

Q2. 教科の授業時間が1割減ることで、教科の授業の理解ができなくなるのではないかと心配です

先生から教わる受け身の授業から、自分で考えて学ぶ授業へと変えていきますので、より習熟することができます。探究は、教科で学んだことを活用・発展する学びですので、今まで以上の深い理解を得ることができます。

Q3. 学校や担当の先生によって評価に、ばらつきが生じませんか？

探究は、これまでも実施していた総合的な学習の時間として、担当の教員がチームになって評価します。5段階評定などは、行いません。どのように学びに取り組んだか等、学びのプロセスと成果を、数値ではなく所見で伝えます。

Q4. 先生は、企業との調整や教材の準備等で、大変になりませんか？

今年度から、毎週水曜日午後に先生方の研修時間を確保し、探究の授業の準備等にあてています。また、教育委員会でも地域連携や企業連携などの調整において、支援サイトを提供するなど、学校を支援していきます。

Q5. 探究では、地域の人たちの支援の必要はあるのですか？

これまでも、地域の皆様にシブヤ科等での御協力をいただいております。今後とも、PTAや学校運営協議会等を通じて、地域の皆様に引き続き御協力いただきながら、子どもたちの探究的な学びを支援していく体制をとっていきたいと思います。

